

## 在校生のみなさんへ

## 『学修時間・教育の成果等に関する調査』の結果について

「東京経済大学 IR 推進委員会」は、教員と学生関係部署の職員から構成され、大学内のさまざまな情報を収集・分析し、その結果を教育・研究、学生支援等に活用する IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を行っています。

そのひとつとして、2016年度から2018年度までの3年度にわたり、毎年7月に全学部生を対象に『学修時間・教育の成果等に関する調査』を TKU ポータル(学生ポータルサイト)でアンケート実施してきましたが、学生のみなさんには定期試験の繁忙期にもかかわらず、毎回、回答にご協力をいただき大変感謝しております。今後の教学改革や学生支援の参考とさせていただきます。

このたび、2018年度の調査結果がまとまりましたので、過去2回の結果とも比較し、その概要をご報告いたします。

## 1、調査の概要

	2016年度	2017年度	2018年度
調査期間	2016.7.11～2016.8.6	2017.7.18～2017.8.13	2018.7.2～2018.7.31
回答者数(全学生中回答率)	1,263名(19.2%)	871名(12.9%)	890名(13.3%)
学年別回答率	1年(31.9%)、2年(23.4%)、 3年(14.3%)、4年(9.8%)、留年(3.5%)	1年(20.9%)、2年(14.5%)、 3年(12.2%)、4年(5.9%)、留年(1.6%)	1年(27.9%)、2年(10.4%)、 3年(10.4%)、4年(5.4%)、留年(2.6%)
学部別回答率	経済(18.1%)、経営(23.4%)、 コミュ(16.6%)、現代法(15.0%)	経済(11.9%)、経営(15.4%)、 コミュ(13.2%)、現代法(9.6%)、CDP(10.0%)	経済(10.7%)、経営(17.6%)、 コミュ(11.7%)、現代法(10.7%)、CDP(14.0%)
質問項目	①最近1週間における平均的な時間の使い方(●出席授業科目数、●授業時間以外の授業に関する学習時間、●個人的興味による自主的学習時間、●資格取得受験勉強時間、●アルバイト時間、●サークル活動時間、●社会活動時間、●就活関連時間)、 ②授業に取り組む姿勢、③授業を受講し、その結果、実力が付いたと思う科目群、 ④学修成果・到達度自己評価(ディプロマ・ポリシーと具体的な10の力の修得度)、 ⑤図書館・学習センター・グローバルラウンジ等学習支援施設の利用状況、⑥卒業後の活躍の場について		
回答者の傾向	3回とも、「1年生」「女子」「経営学部」の回答率が高かった。 2017年度以降、同時期に「授業アンケート」が実施されているので、学生の回答負担が増したためか回答率が下がった可能性がある。		

## 2、調査結果のポイント

## ①最近1週間の平均的な時間の使い方 (⇒グラフ①②③④⑤⑥参照)

1年生から3年生は、履修登録上、履修制限単位数の上限に近いと思われますが、授業に登録どおり出席している学生が「70%から80%程度」いる一方で、逆に10%程度の学生は1年生から厳しい状況にあり、他の退学者調査とも関係性がうかがわれます。全体としては、「授業の出席」を最優先し、それ以外の時間は、「アルバイト」のウエイトがかなり高く、「課外活動」や「資格の勉強」等のやりくりをしているようです。さらに「授業に関する学習時間」や「自主的な学習時間」を増やす工夫が必要となります。

## ②授業に取り組む姿勢 (⇒グラフ⑦⑧⑨参照)

予習よりも授業後に疑問点を調べ、新たに発生した興味について自主的に学習する方が多いようです。「授業の出席」を第一に「課題やレポートはきちんと提出」するが、積極的に質問することや、教科書以外の参考図書利用はさらに伸ばす余地があるところです。ゼミ等への積極的参加は履修率の高いコミュニケーション学部が顕著で、現代法学部は全体的に授業の取り組みが積極的です。

## ③本学の授業で受講し、その結果、実力が付いたと思う科目群 (⇒グラフ⑩⑪⑫参照)

1年生の回答が多いので1年次配当科目(英語・コンピュータ・1年次ゼミ等)の評価が高くなりました。「総合教育科目」は高学年になるほど高くなり、「総合教育科目演習」では特に経済学部生が力をつけているようです。「専門教育科目」は高学年になるほど高くなりますが、特に現代法学部では「専門の入門・基礎的科目」が、経済学部では「専門の応用的科目」が、コミュニケーション学部では「専門の演習科目」が高くなりました。「数的思考科目」「コンピュータ科目」「キャリア科目」はいずれも経済学部が高くなりました。全体の課題としては、1年生の時に自信をつけた「英語」と「コンピュータ」を2年次以降も継続して学習すること、数的思考力の強化のようです。

## ④学修成果・到達度自己評価 (⇒グラフ⑬⑭⑮⑯参照)

学修成果による具体的な10項目の能力については、学年進行とともに到達意識が高くなります。特に「実践的コミュニケーション力」「時間管理力」「社会市民力」に自信を持ち、逆に「科学的・数論的思考力」「チームワーク・リーダーシップ」「グローバル化対応力」を苦手とする傾向が出ています。ディプロマ・ポリシーの到達度は4年生でぐんと高くなりました。本学学生の長所である「おとなしくてまじめ」から一歩踏み出す「進一層」が期待されます

## ⑤授業以外での「各学習施設」等の利用状況 (⇒グラフ⑰⑱参照)

図書館の利用の実態は「図書の閲覧・貸出」から「情報検索やデータベースの利用」へと移行しています。「学習センター」や「グローバルラウンジ」だけでなく、「教職ラウンジ」や「地域連携センター」も新たな学習拠点として機能し始めている様子がわかりました。各施設の独自イベントも利用者拡大に有効だと思われます。

## ⑥卒業後の活躍の場について (⇒グラフ⑲⑳参照)

全体的に年々グローバル志向が増えているようですが、4年生が急に高くなるのは就職が内定した会社の現状を反映している可能性があります。学部の特色があらわれ、コミュニケーション学部はグローバル志向の傾向が強く、現代法学部はまちおこしの積極派をふくめ地域への関心が高いようです。

## ⑦「学習時間」「学習行動等」と「修得能力到達度」との関係について (⇒グラフ㉑参照)

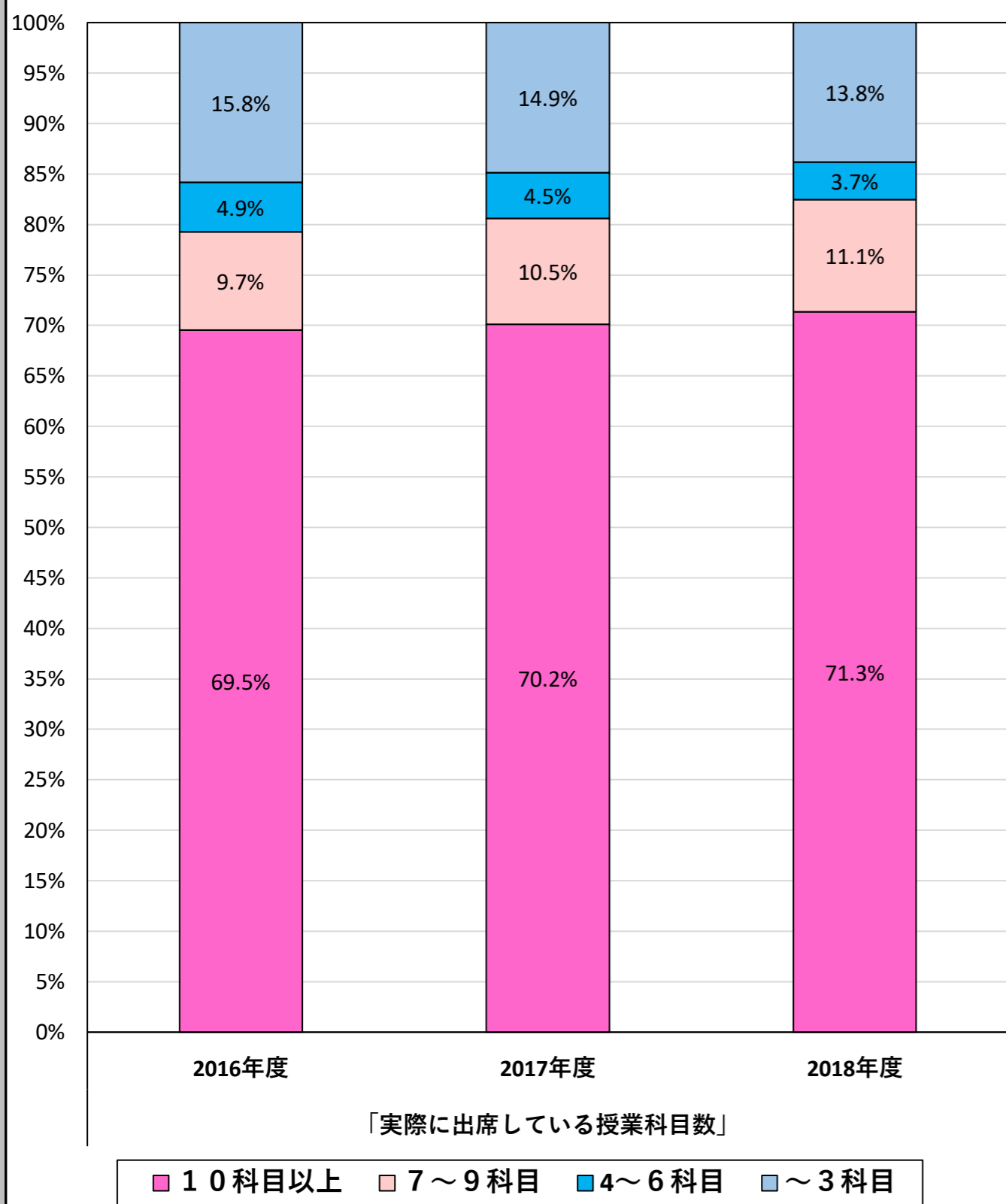
「学習時間が長く、授業関連以外の自主的な学習まで行っている学生」の修得能力到達度は高くなります。また、「図書館」だけでなく、「学習センター」や「グローバルラウンジ」をよく利用する学生、さらに複数の学習施設をよく利用する学生の修得能力到達度は群を抜いて高くなりました。教室だけでなく、多様な学習支援施設を積極的に活用した学習行動を促進することが重要です。

以上

# 1. 最近1週間における平均的な時間の使い方

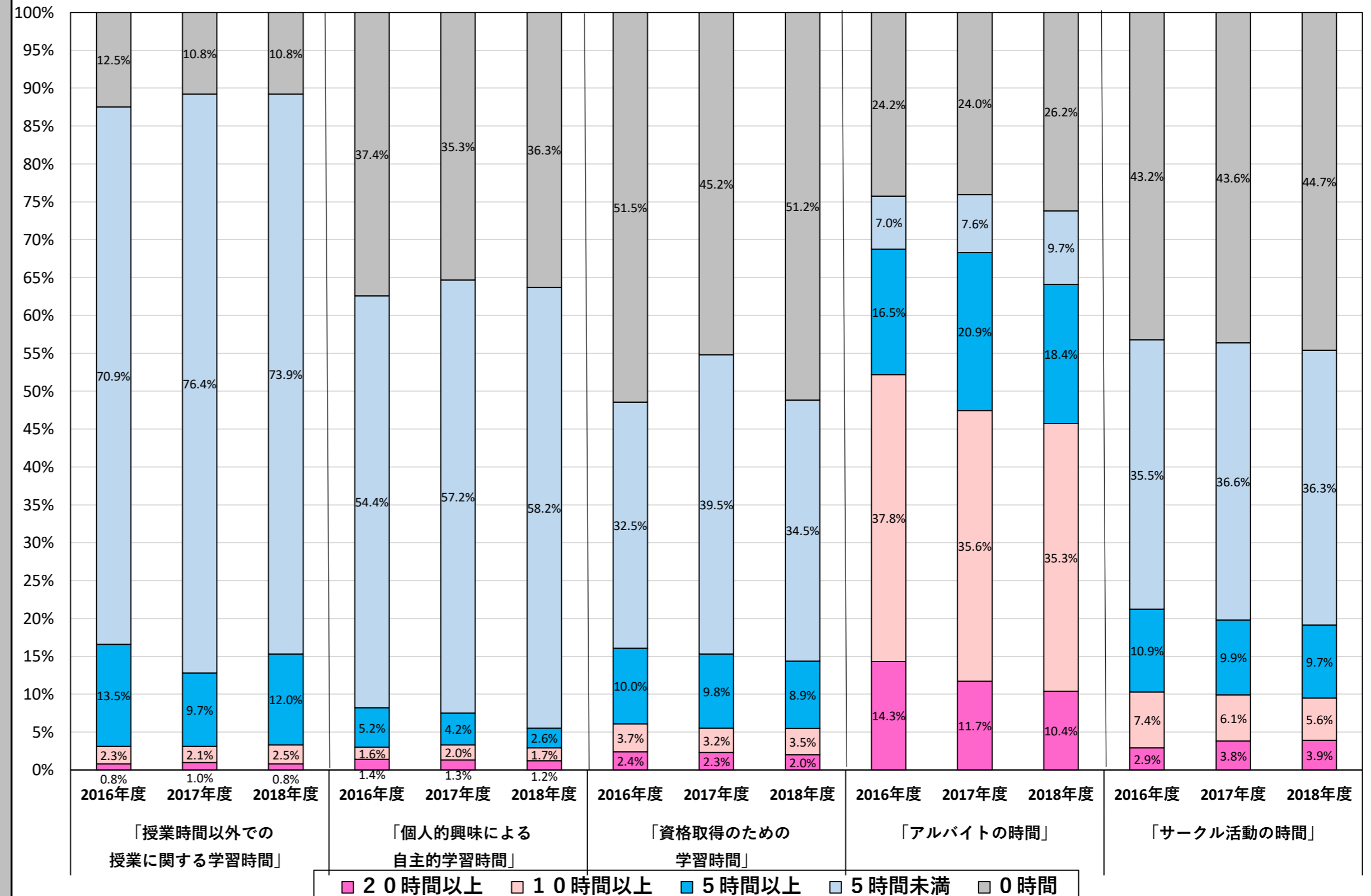
最近1週間における「出席授業科目数」(全学年)

グラフ①



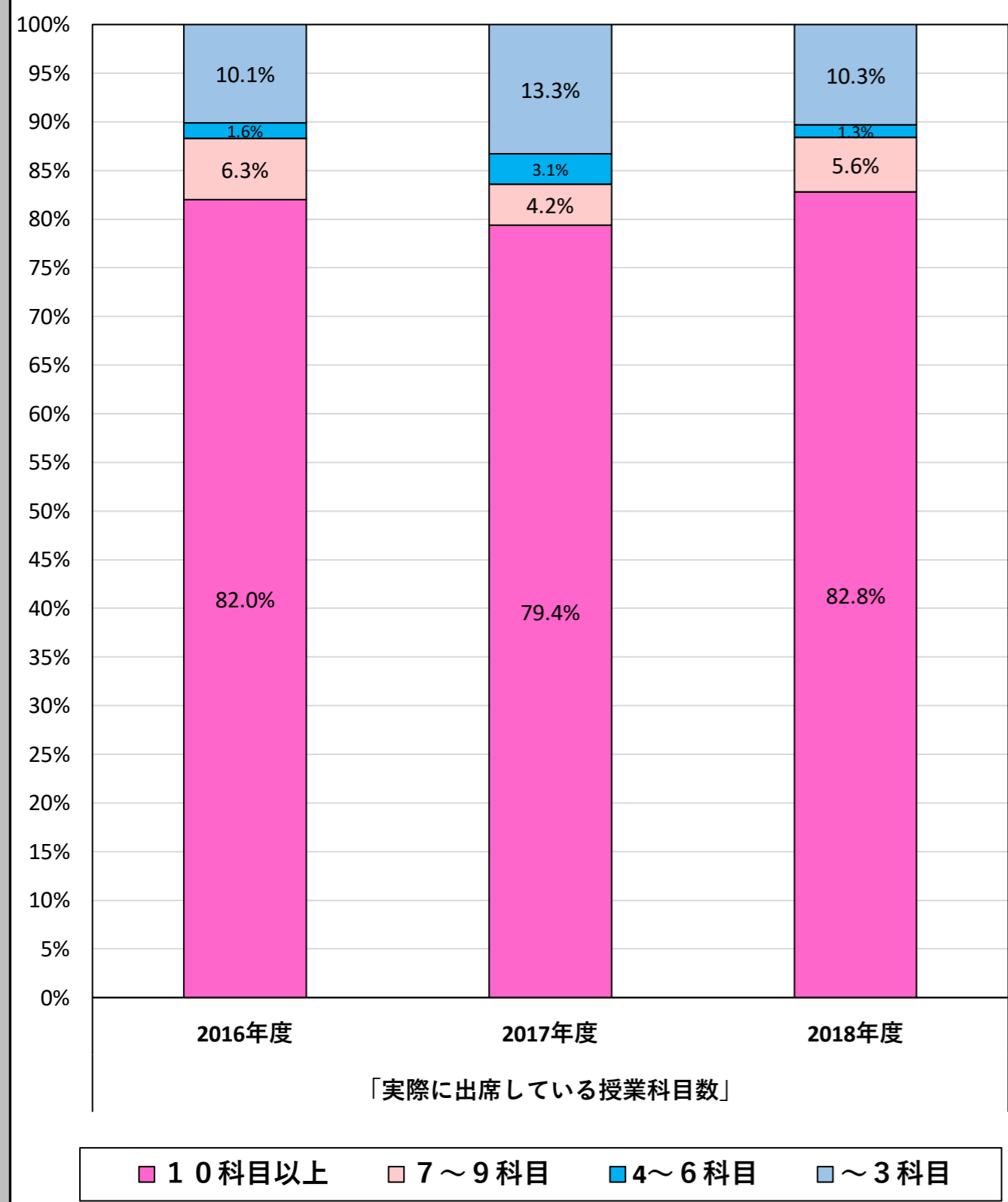
最近1週間における平均的な時間の使い方(全学年)

グラフ②



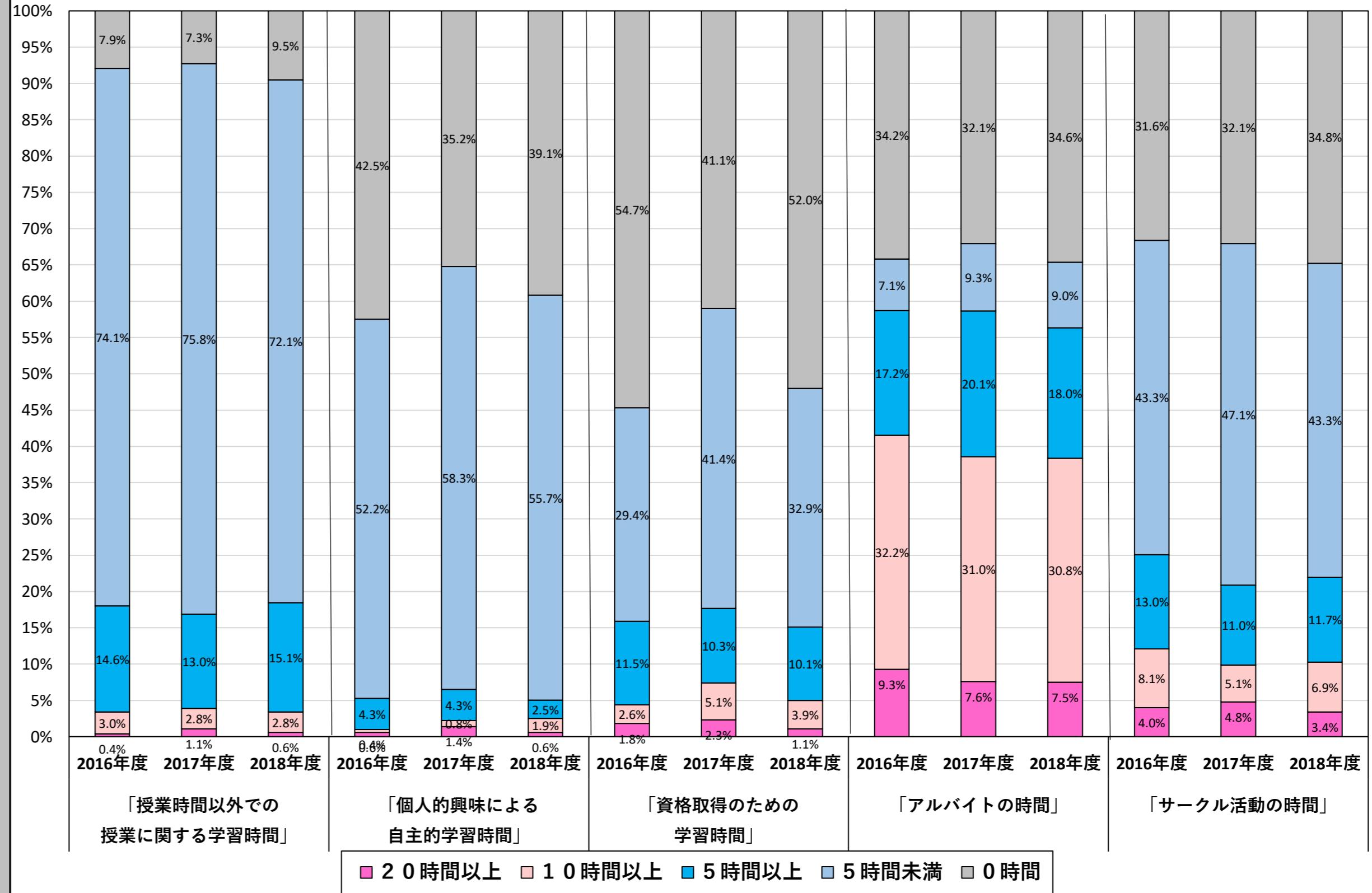
最近1週間における「出席授業科目数」(1年生)

グラフ③



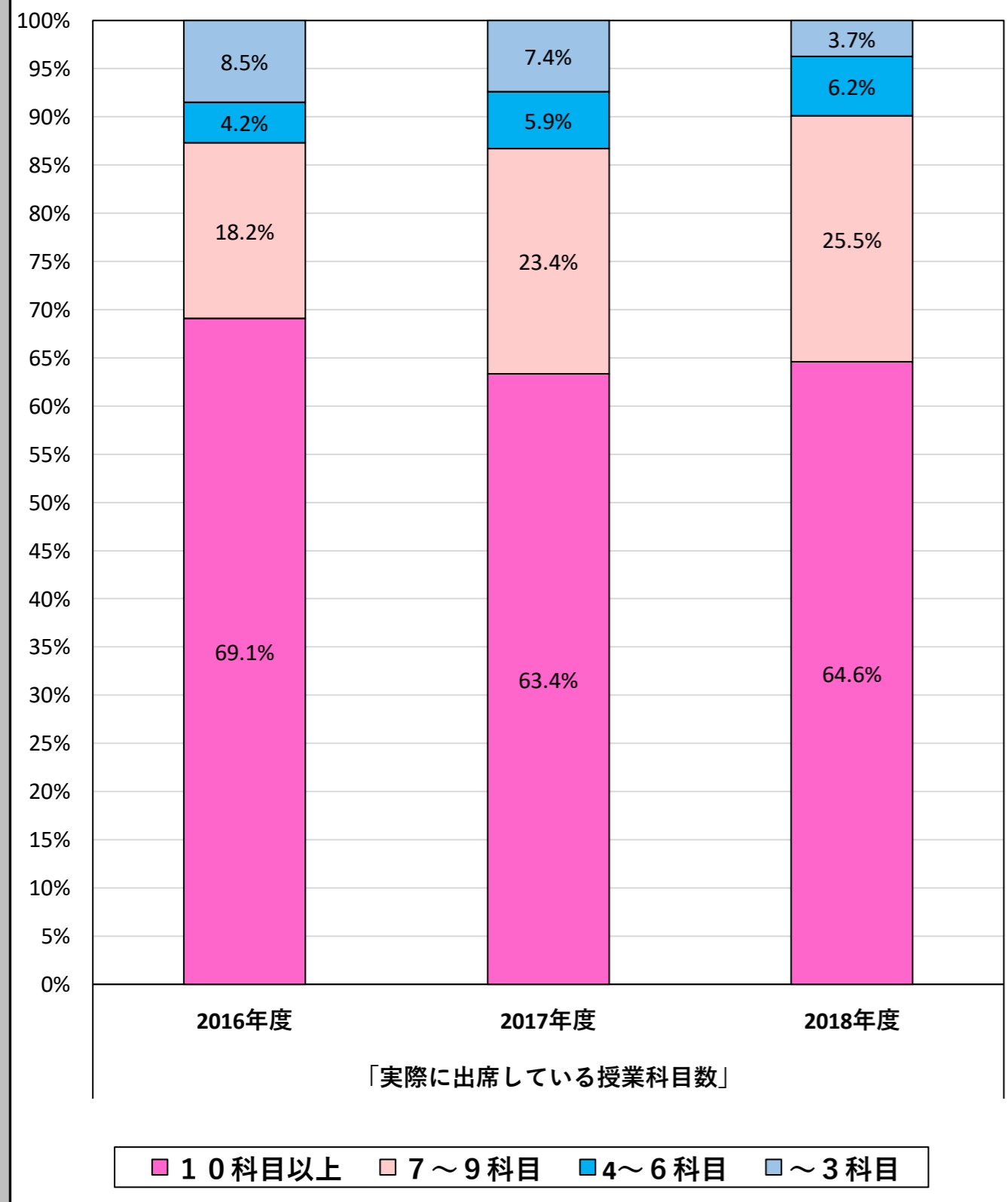
最近1週間における平均的な時間の使い方(1年生)

グラフ④



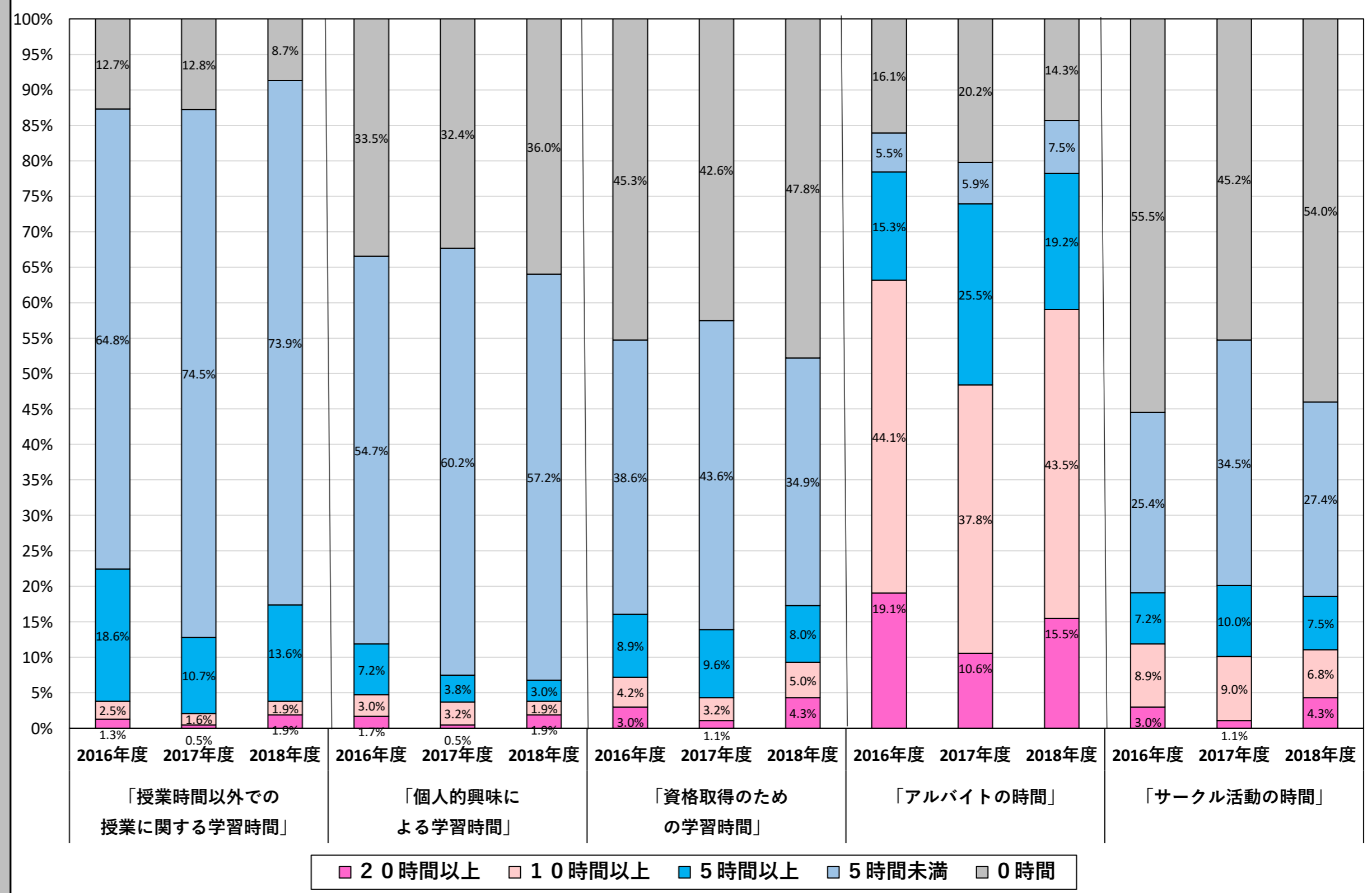
最近1週間における「出席授業科目数」(3年生)

グラフ⑤



最近1週間における平均的な時間の使い方(3年生)

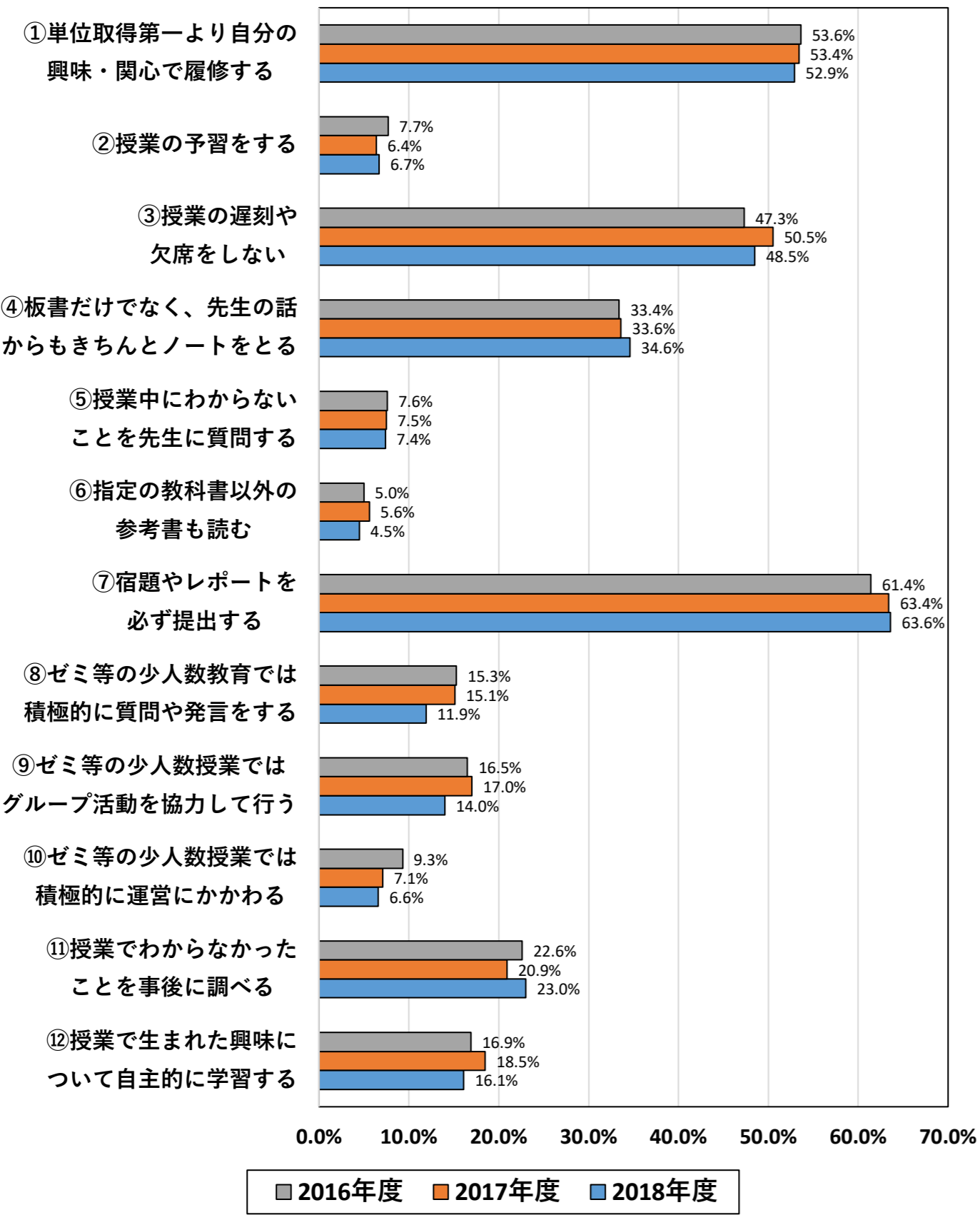
グラフ⑥



## 2. 授業に取り組む姿勢

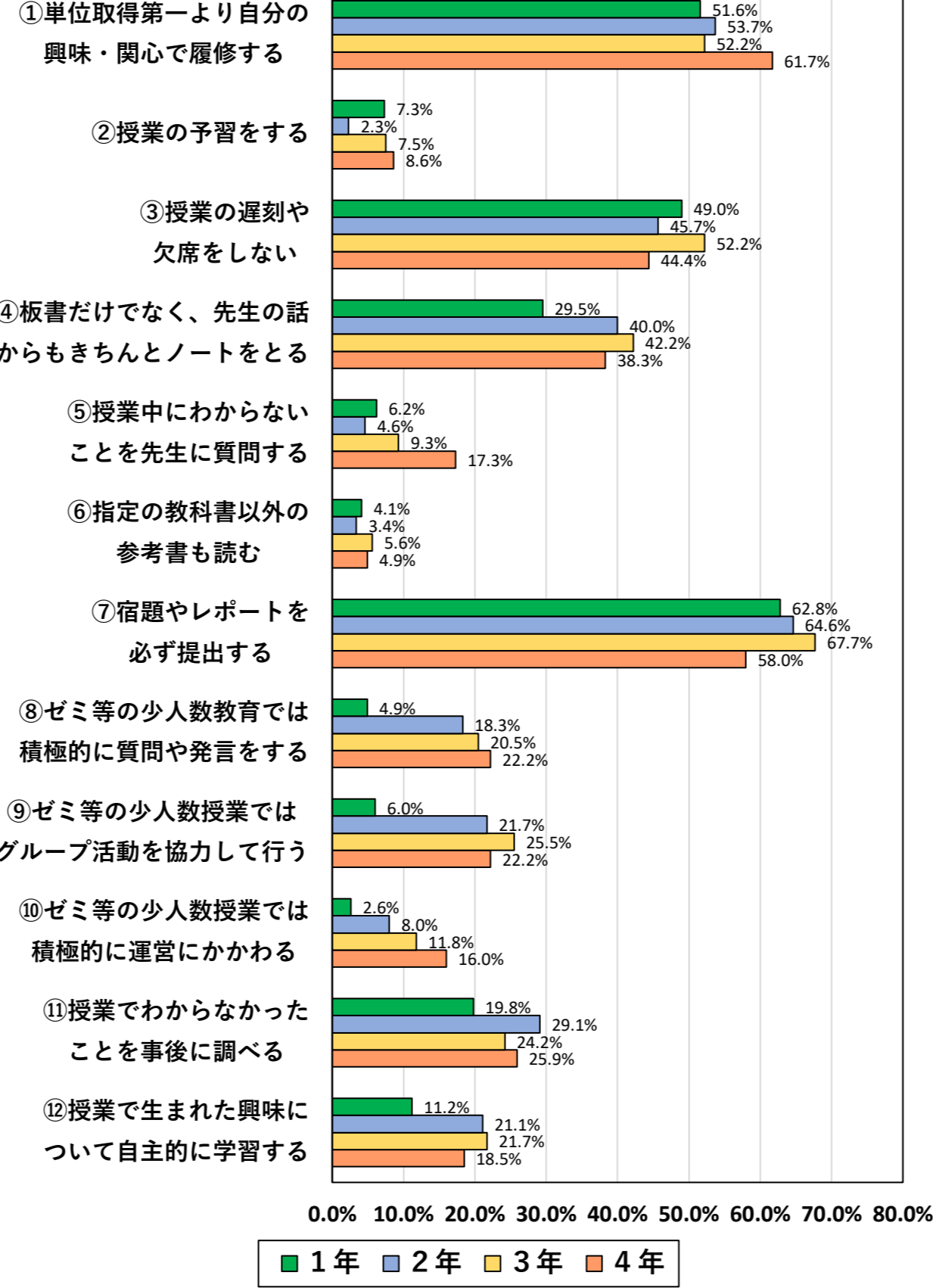
授業に取り組む姿勢（全学年）

グラフ⑦



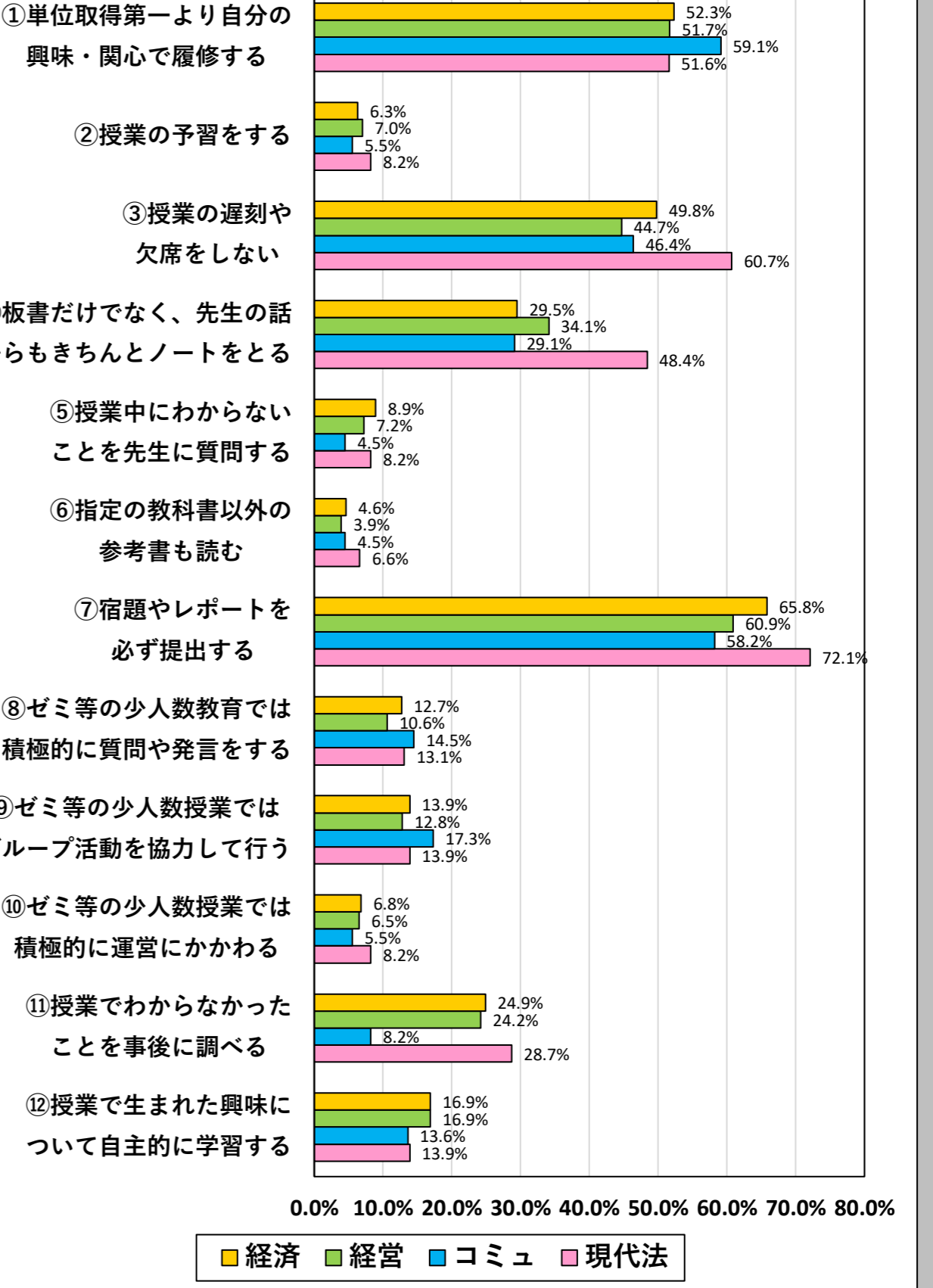
2018年度授業に取り組む姿勢（学年別）

グラフ⑧



2018年度授業に取り組む姿勢（学部別）

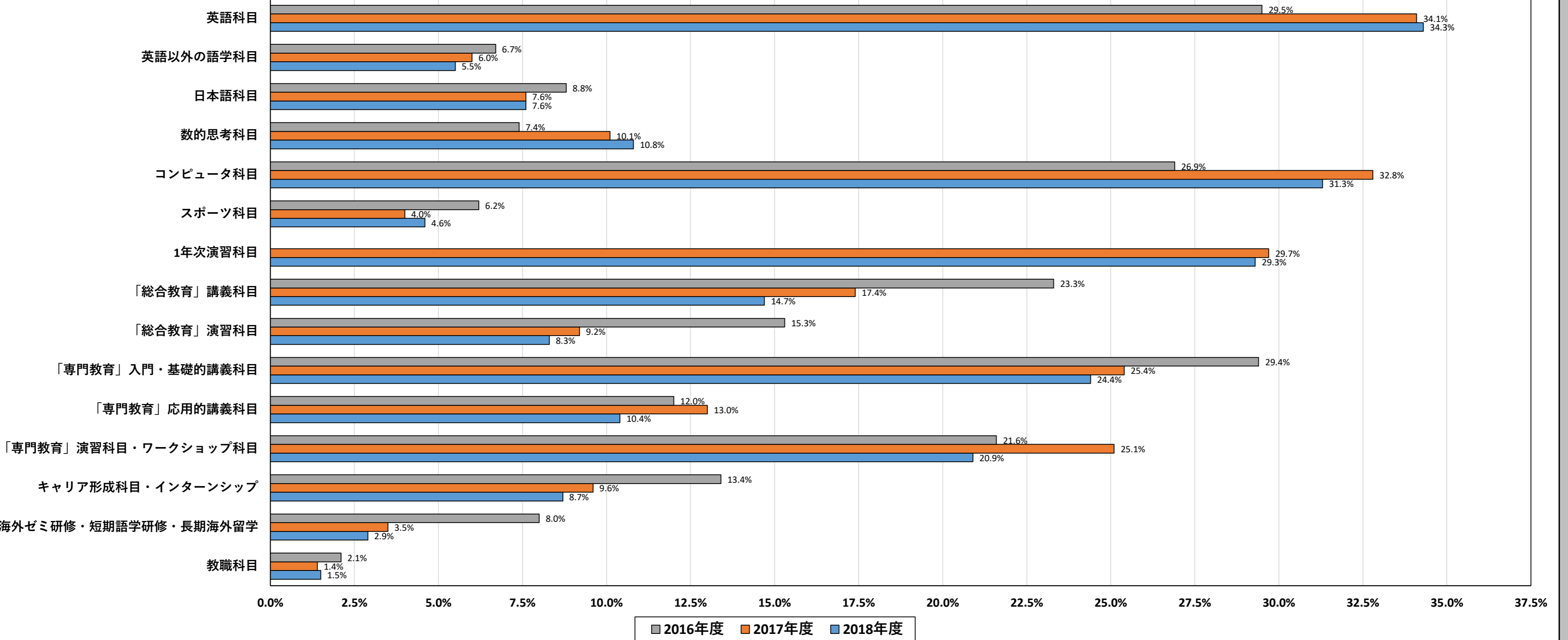
グラフ⑨



## 3. 本学の授業で受講し、その結果、実力が上がったと思う科目群

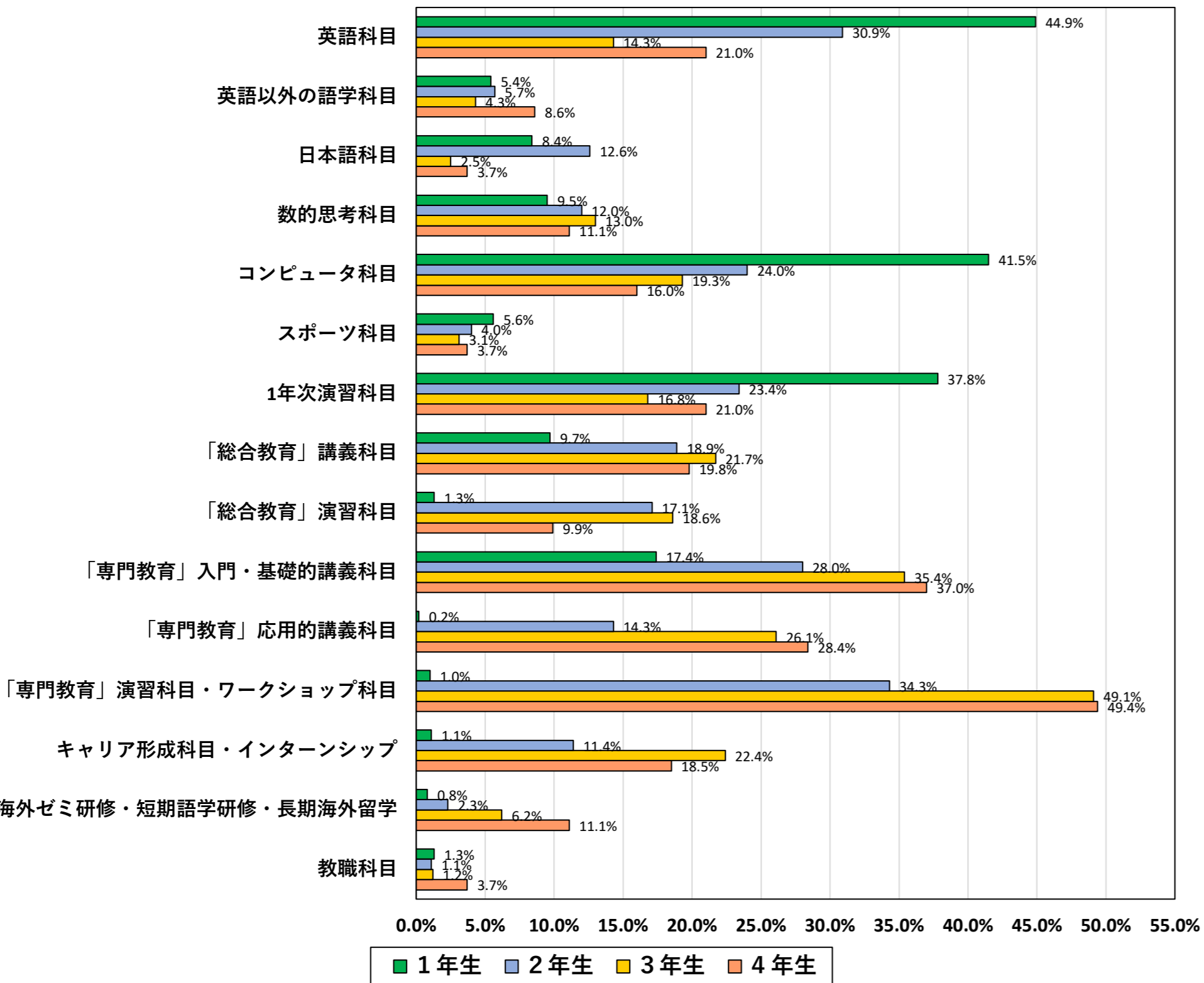
本学の授業で受講し、その結果、「実力が上がったと思う科目群」（全学年）

グラフ⑩



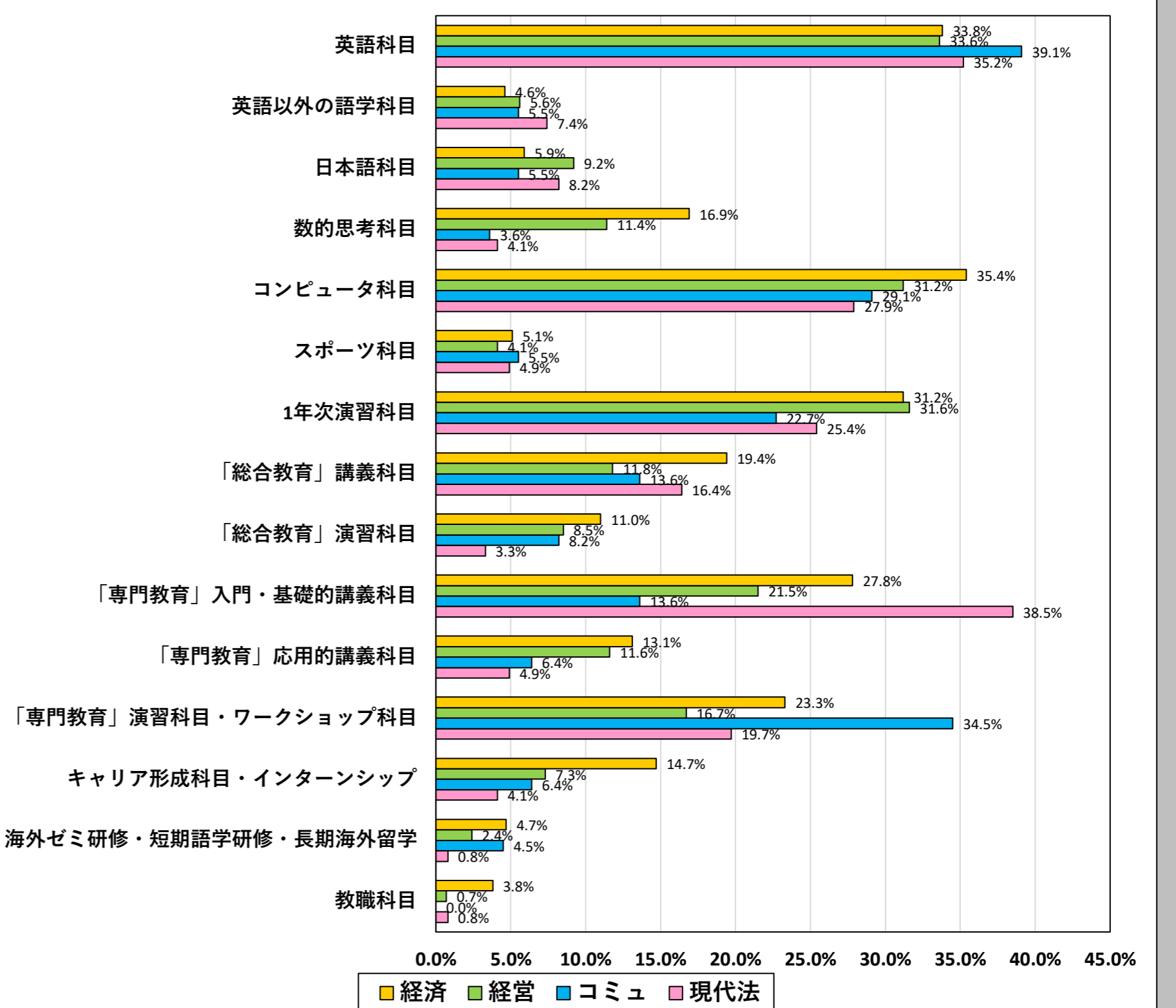
2018年度「実力が上がったと思う科目群」（学年別）

グラフ⑪



2018年度「実力が付いたと思う科目群」（学部別）

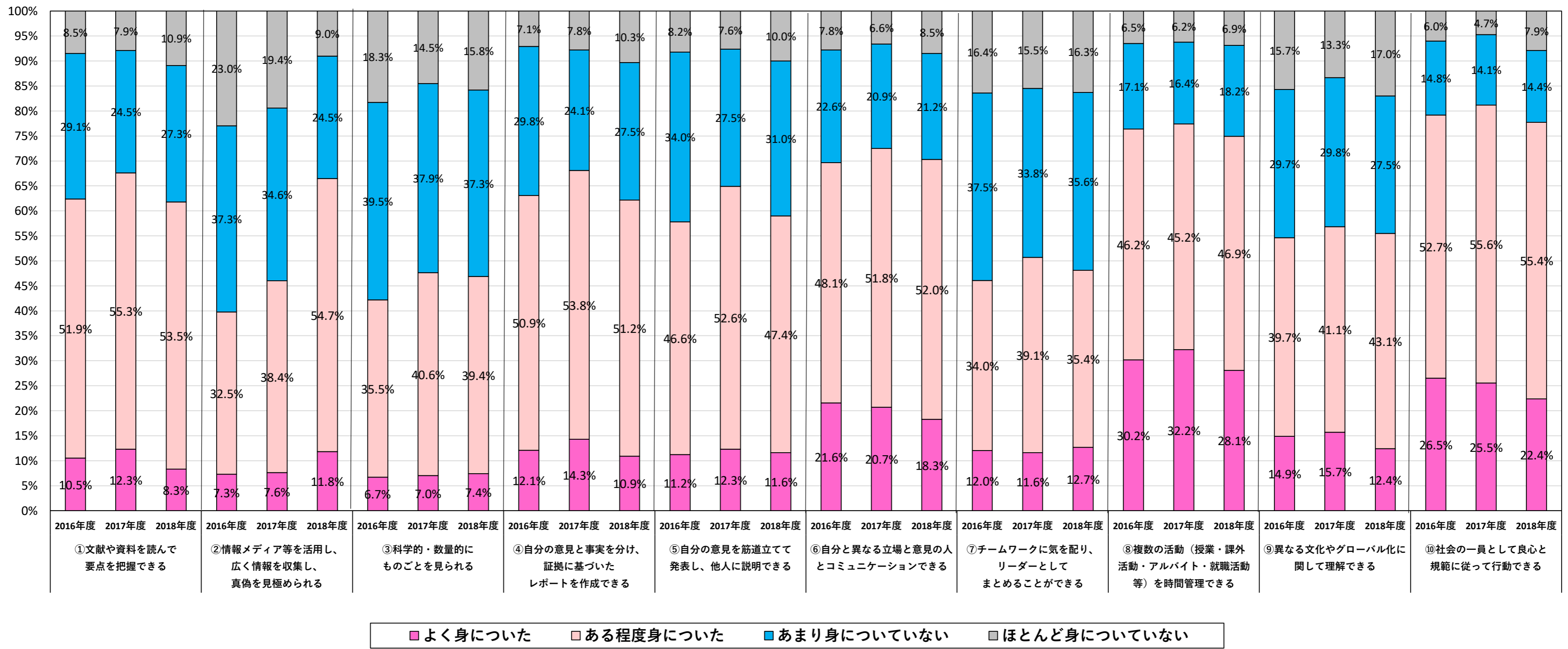
グラフ⑫



# 4. 学修成果・到達度自己評価

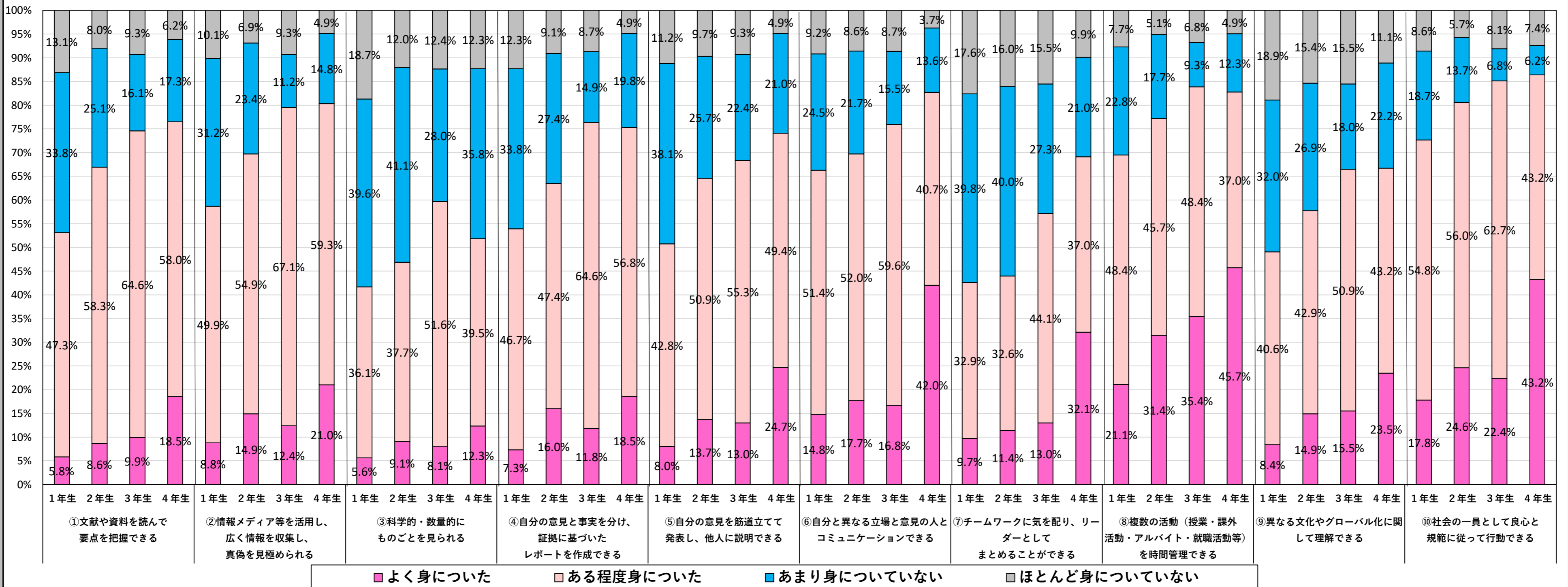
学修成果による10の修得能力の到達度（全学生）

グラフ⑬



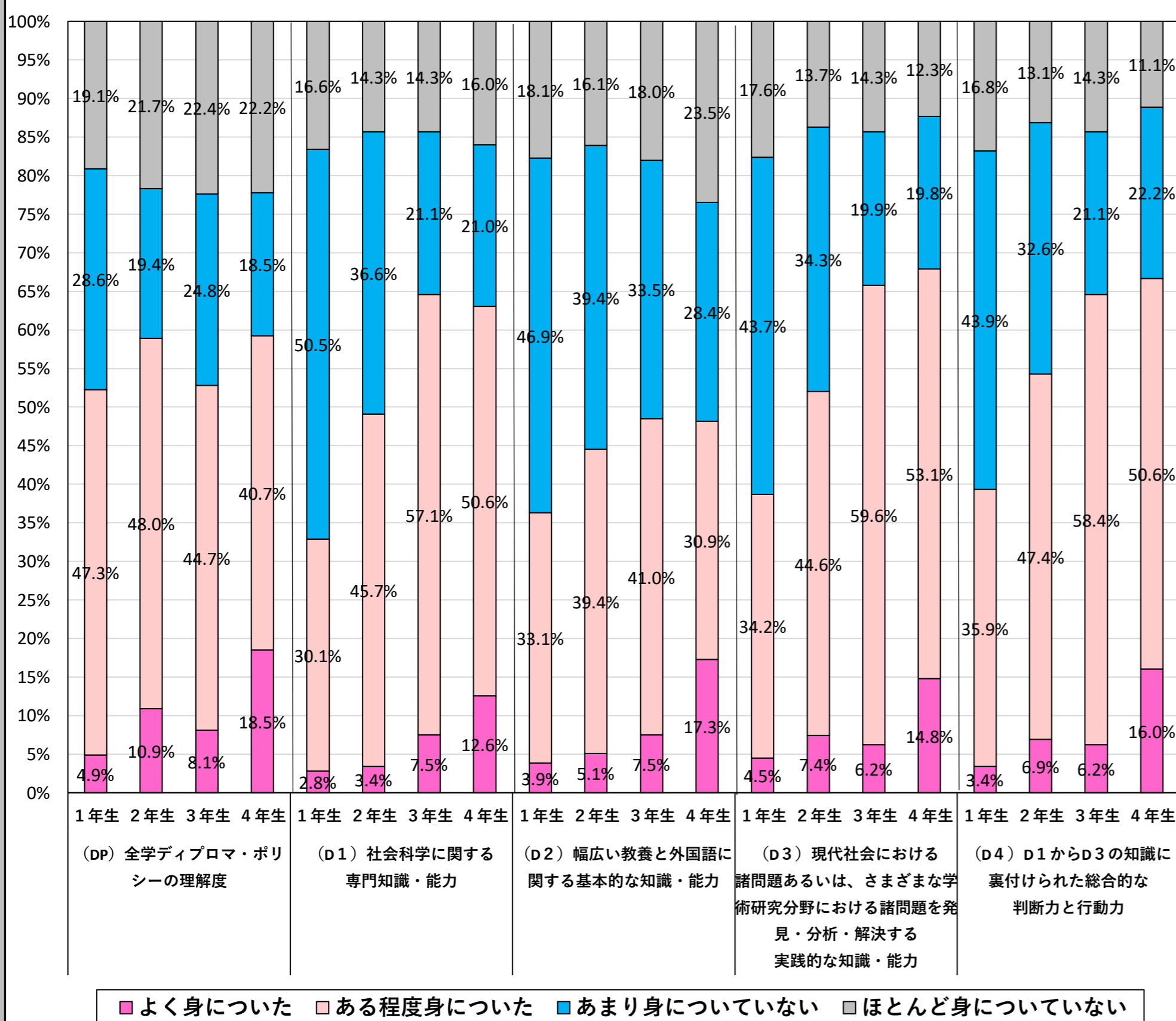
2018年度「学修成果による10の修得能力の到達度」（学年別）

グラフ⑭



2018年度「全学のディプロマ・ポリシー」の到達度（学年別）

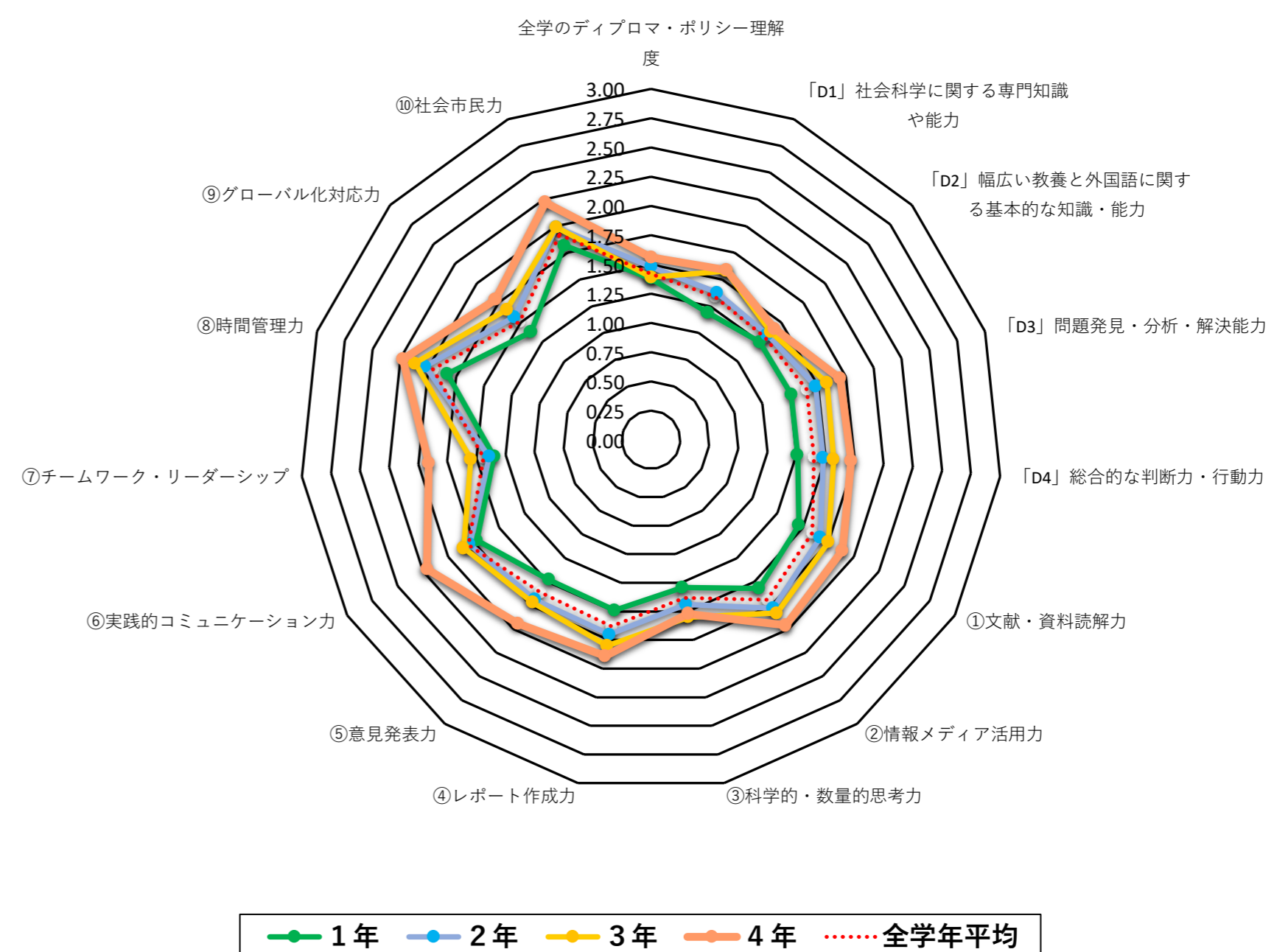
グラフ⑮



2018年度「ディプロマ・ポリシー」と「10の修得能力」の到達度バランス（学年別）

グラフ⑯

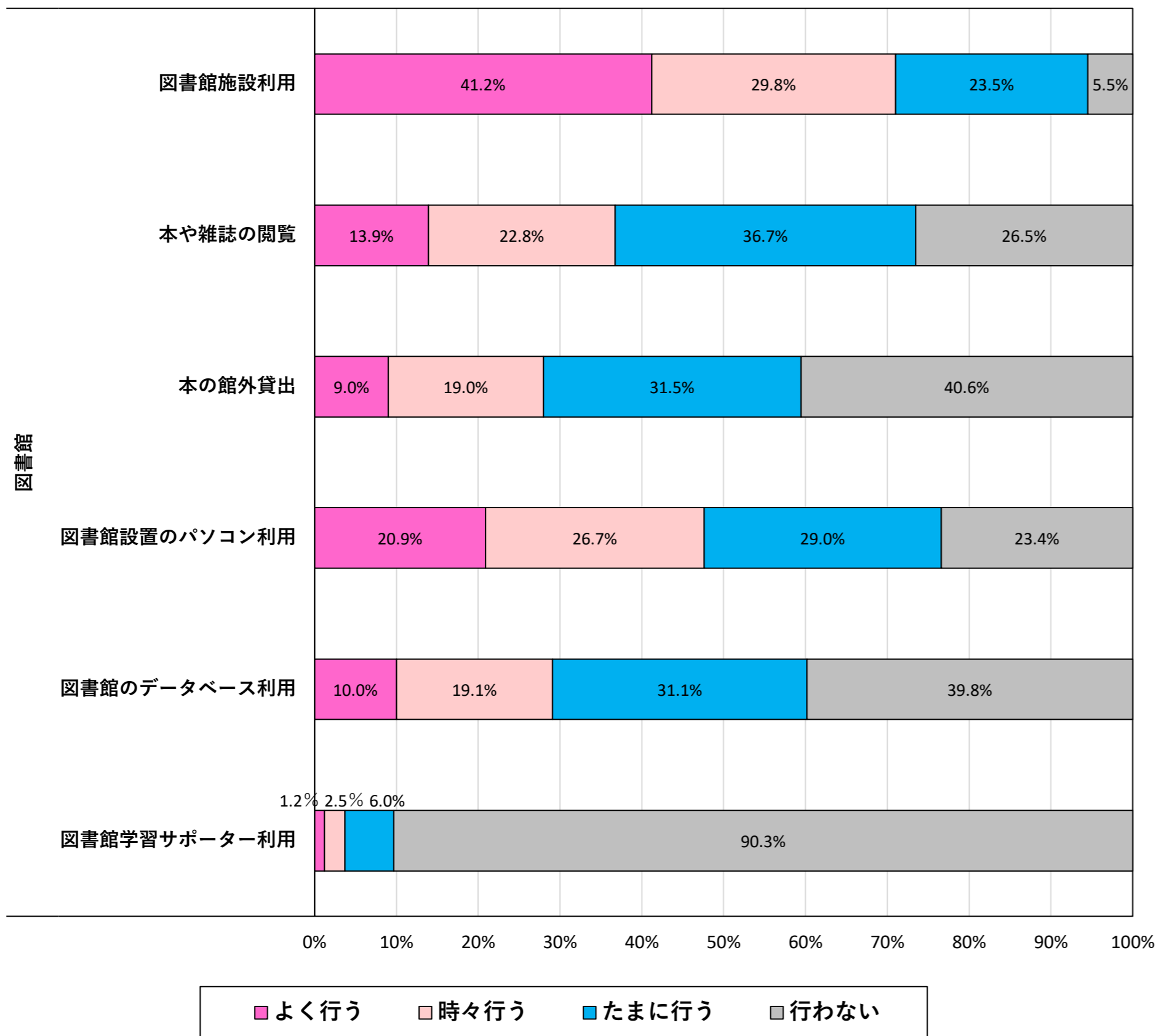
各学生回答の「よく身についた=3点」「ある程度身についた=2点」「あまり身につけていない=1点」「ほとんど身につけていない=0点」と点数化し、学年ごとの平均値を表示した。



## 5. 授業以外での「各学習支援施設」等の利用状況

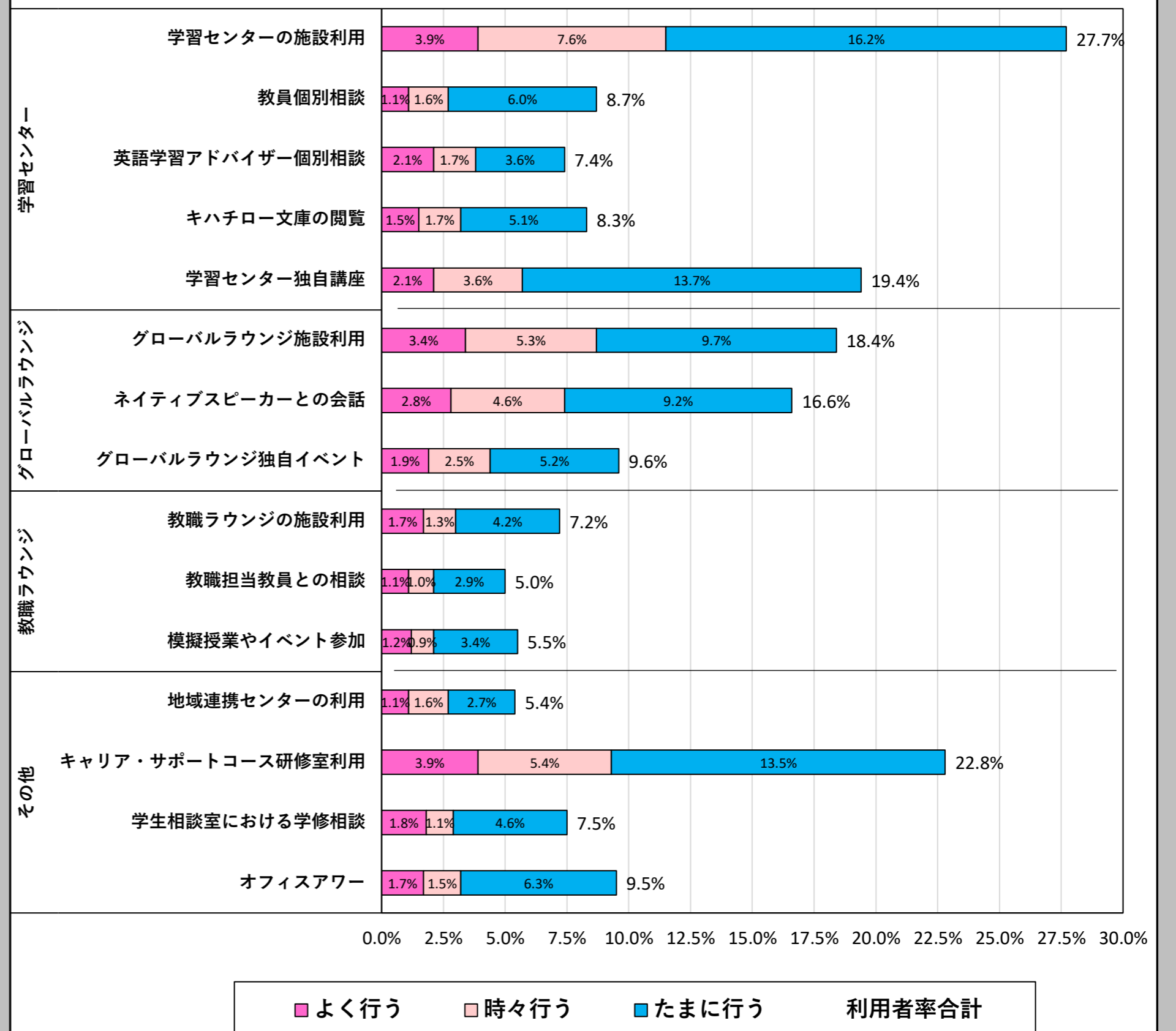
2018年度「図書館」の利用状況(全学年)

グラフ⑦



2018年度「その他の学習支援施設等」利用状況(全学年)

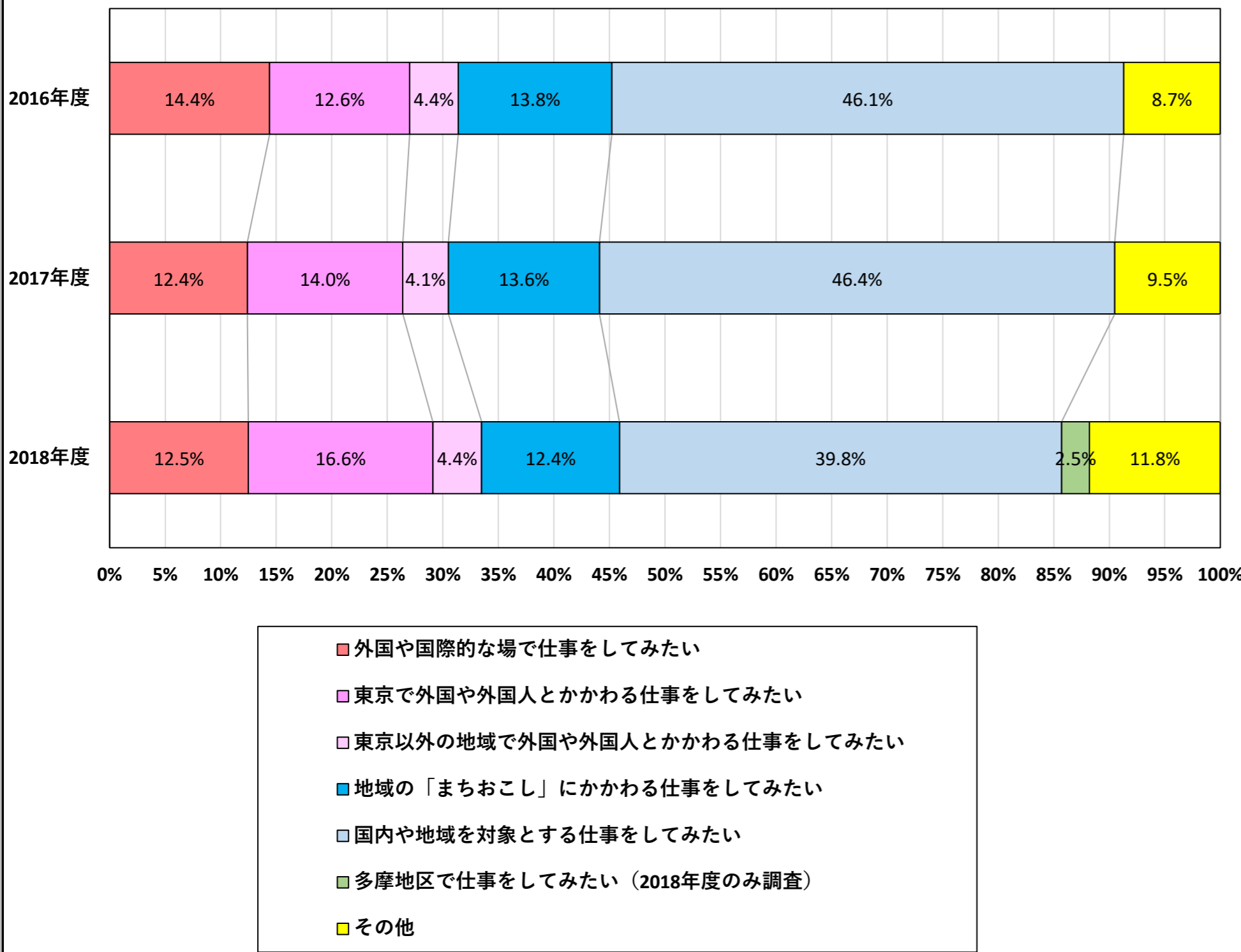
グラフ⑧



## 6. 卒業後の活躍の場について

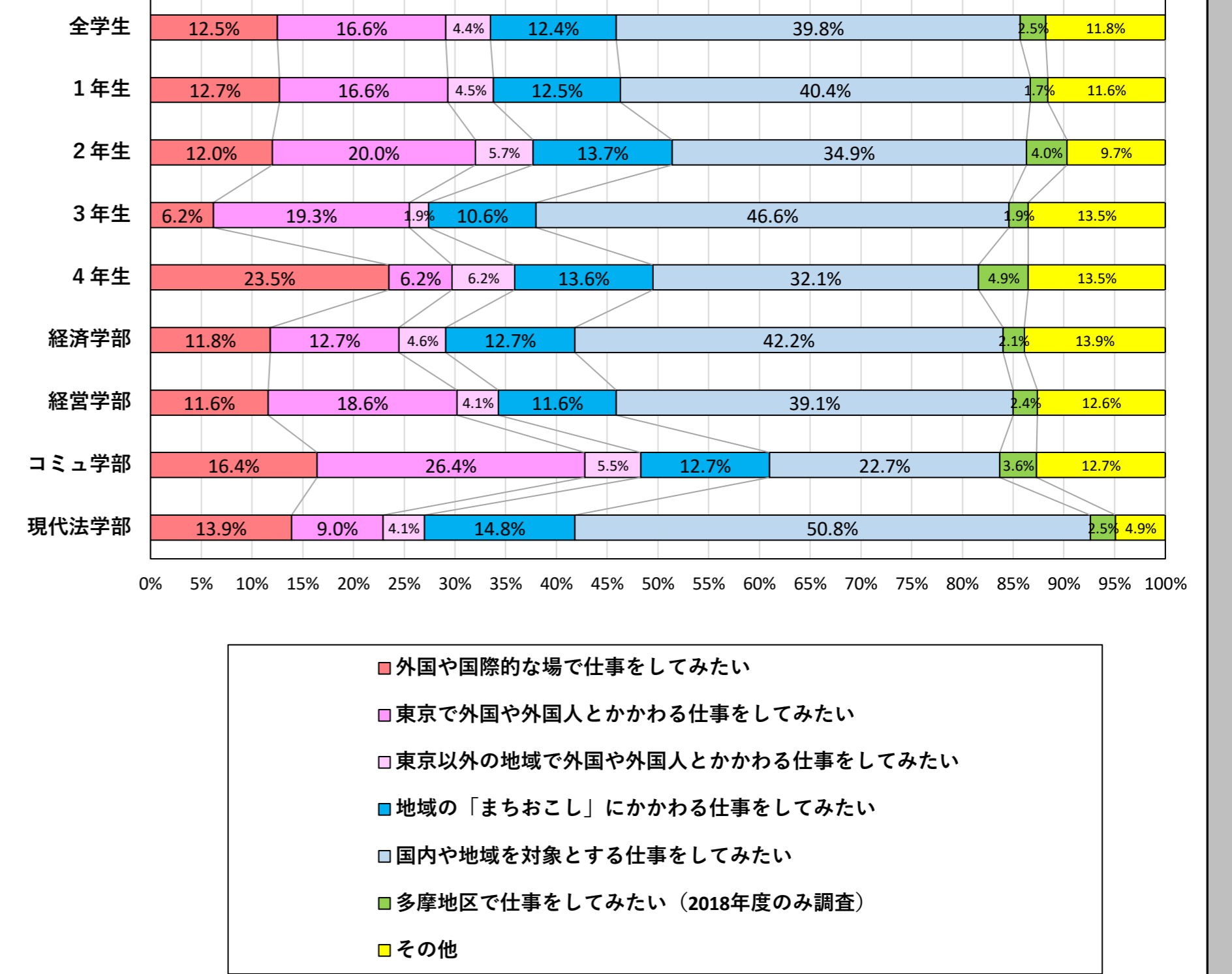
卒業後の活躍の場について考えていること(全学生)

グラフ⑨



2018年度卒業後の活躍の場について考えていること(学年・学部別)

グラフ⑩



## 7. 「学習時間」「学習行動等」と「修得能力到達度」との関係について

2018年度「学習時間」「学習行動等」と「全学のディプロマポリシー修得スコア」

グラフ⑪

